

# 令和7年度 「後期・音楽科特別講座」 東京会場 講座レポート

令和8年1月10日(土) 江戸川区立清新第一小学校

主催: 音楽教育推進協議会

後援: 文化庁／東京都教育委員会／神奈川県教育委員会／埼玉県教育委員会  
茨城県教育委員会／栃木県教育委員会／群馬県教育委員会／山梨県教育委員会  
長野県教育委員会／新潟県教育委員会／横浜市教育委員会／川崎市教育委員会  
相模原市教育委員会／千葉市教育委員会／さいたま市教育委員会／新潟市教育委員会  
東京都小学校音楽教育研究会／東京都中学校音楽教育研究会  
神奈川県小学校音楽教育研究会／神奈川県公立中学校音楽教育研究会  
千葉県教育研究会音楽教育部会／埼玉県音楽教育連盟／茨城県教育研究会音楽教育部  
栃木県小学校教育研究会音楽部会／群馬県音楽教育協会／山梨県小中学校音楽教育研究会  
長野県音楽教育学会／新潟県音楽教育研究会／横浜市小学校音楽教育研究会  
川崎市立小学校音楽教育研究会／相模原市立小学校教育研究会（順不同）

協賛: 株式会社ヤマハミュージックジャパン

# 選択講座1 <わたしの歌唱の授業 4年～6年>

講師:後藤 朋子先生



合唱指導者としてご活躍の後藤先生の講座は、期待通りとても中身の濃い100分間でした。最初は大きな円となり、わらべ歌や「ゆかいに歩けば」の曲を使って心と体を解放した楽しい導入を紹介すると共に、音楽の感覚を体で覚えていく方法を色々と教えていただきました。年度初めに指導するという5つの視点を児童に提示する際も、敢えて簡単なところから一つずつ意識を積み上げることが無理ないことや、どこかで全員を褒めてあげて音楽があまり好きではない児童へのハードルを下げていくことなど、後藤先生のお話は児童への温かいまなざしが常を感じられました。

講座で特に印象的だったことの一つは、いかにして児童の主体的な活動を引き出すかを後藤先生は常に考えていること、もう一つは、児童が互いに関わり、つながることで他者との対話や協働が生まれ、アンサンブルの響きが変わったり学びが深まったりするということを実感できたことです。「体が動く」という先生の言葉通り、参加された先生方が自分を解放し、のびのびと自己表現していく中で次第に歌声が輝きを増していきました。気がつけば参加者皆が笑顔になり、互いに拍手喝采で終わる楽しい時間となりました。

音楽教育推進協議会 常任理事



# 選択講座2 <曲からのメッセージを理解して歌うこと 心を込めて歌えるための指導法> 講師:山崎 朋子先生



ご自身の作詞・作曲による合唱曲6曲を、受講された先生方が実際に合唱に取り組みながら、この日のテーマである“曲からのメッセージを理解し心を込めて歌える”ための大事な3つのポイントを山崎先生から学びました。

また、これまで音楽授業をされてきた豊富なご経験の中から、音楽的に様々な特性をもつ子供たちへどのように対応し、指導を工夫されてきたかについても具体的に話してくださいました。

さらに、アシスタント講師の、オペラ歌手足立悠道先生が、各母音の方向性など発声の基本や音程のとれない子どもへの指導の工夫などを範唱を交えながら山崎先生との対話形式で解説してくださいました。

もう一人のアシスタント講師である指揮者の鴉田遼人先生は、ピアノ伴奏を担当されるとともに、合唱指揮の基本的な振り方を器楽指揮との違いにも触れながら実技を交え、指導してくださいました。

山崎先生が各曲の作曲に至った経緯も含め、それぞれの楽譜に込められた深いメッセージを作曲者自身の言葉で語っていただいたことで、受講者の皆さんの合唱がますます素晴らしいものへと変わっていきました。



音楽教育推進協議会 常任理事

# 選択講座3 <子供の表現を引き出す指揮の工夫 ~卒業式に向けて~>

講師:田久保 裕一先生      ピアノ伴奏:石川 恵梨先生



今回の田久保先生の講座は、「今、卒業の時!」、「最後の一步 最初の一步」、「ほらね、」と、卒業式を意識した楽曲で構成されていました。また、田久保先生の講座を初めて受講するという先生方が大変多く、指揮者(指導者)として、目の前の子ども達にどうアプローチしたらよいかを学びたいという雰囲気会場となった音楽室に漂っていました。

用意された資料にはいつものようにアナリーゼの重要性や田久保先生独特の「指揮の裏技集」がまとめられていて、午前・午後とも5人の先生が実際に指揮をしました。楽曲を進める中、田久保先生の発する「胸キュンでしょ!」、「かっこいいでしょ!」、「よく見るとこれがあるんだよ!」などの“ことば”が印象に残りました。その“ことば”で指揮をする先生の姿にも歌う先生方の表現にも変化が現れるのです。これは目の前の子供たちにも通じるのではないのでしょうか。楽曲を進める中、前に出て指揮をする先生に合わせて自席で指揮をする先生方の姿が“胸キュン”な講座でした。



音楽教育推進協議会 常任理事

# 選択講座4 <創作活動を通して子供たちの創造性や発想力を広げよう>

講師:大田 桜子先生



講座の冒頭で、大田先生は次のようなお話をされました。「AIが発達してきている時代だからこそ、人間独特の感情のゆらぎや偶然性の発想を大切にしたい。また、迷ったり、試行錯誤したりすることが大切である。」学校教育で行わなければならないことを、改めて示唆された気持ちになりました。

大田先生の講座では、沖縄音階を使ったメロディ作りと、コードを使った歌作りを行いました。特に、印象に残ったことは、次のとおりです。

- ・創作活動は、お膳立てが大切である。
- ・いいメロディを作ろうと思わず、偶然性を大切にする。
- ・歌作りでは、言葉のイントネーションを考えて、その抑揚に応じた音を選ぶ。

受講されている先生方は、真剣に取り組まれていて、あっという間の100分間でした。何人か発表されていましたが、素敵なメロディや歌が出来上がりました。『誰にでも作れる』創作活動を体験されたことと思います。きっとこの活動は、目の前にいる子供たちに還元されることと期待します。



音楽教育推進協議会 常任理事

# 選択講座5 <アナログ×デジタルで紡ぎ出す音楽の豊かな学び>

～音をつなぎ、人をつなぎ、心をつなぐICT活用実践紹介～

講師:小梨 貴弘先生



本講座では、戸田市で行われた2つの研究会を振り返って…「ICTは、音をつなぎ、音楽を通して人と人とをつなぎ、音楽の学びを未来へつないでいくためのもの」という信念のもと、実践に裏打ちされたお話が印象的でした。小梨先生の飽くなき熱い探究心が、参会の先生方に飛び火して、未来の音楽教育を切り拓くエネルギーと勇気を小梨先生から頂いたような講座になりました。

- 1.「音楽用生成AI」で何ができる？  
～生成AI活用で考える、これからの音楽授業に必要な視点～
- 2.アナログ音楽のよさを活かす、最新音楽Webアプリ  
～音楽の学びを進化(深化)させる、Newアイテムのご紹介～
- 3.音楽×ICTで、人と人の「心」をつなぐ  
～関東甲信越音楽教育研究大会ワークショップ「ステキだね！プロジェクト」報告～



音楽教育推進協議会 常任理事

# 選択講座6 <教材楽器たちを深めて楽しむ！>

～鍵盤ハーモニカ、リコーダー、学校用電子キーボードを通して～

講師: 吉森 祐也先生



「学校用電子キーボードを使いこなそう！」では、様々な伴奏の音色や音量を工夫して子供たちが考えながら歌う場面を設定していくことや、リズムパターン、移調機能を効果的に使ってみることなど、アイデアをたくさん紹介していただきました。また、パソコンとつないで様々なフリーソフトを活用して自発的な活動へ導く工夫も紹介されました。

「合奏を通して鍵盤ハーモニカやリコーダーを深めよう！」では、鍵盤ハーモニカのホースの挿入の仕方、くわえ方などの基本的な内容や、音色を変化させる工夫など、大変興味深いお話でした。リコーダーの指導では、子どもたちに音の重なりを意識させる工夫、タンギングやサミングなど、押さえておくべき重要なポイントを教えていただきました。

まとめでは「音楽好き」につながるヒントとして、子供たちのよさを存分に褒めていくこと、「面白い」から「楽しい」、そして「深化」へと導くことが大切だとして講座を終えました。



音楽教育推進協議会 常任理事

# 全体講座 【楽曲分析から解析へ】

講師：富澤 裕先生



1月10日、令和7年度・後期『音楽科特別講座』東京会場が江戸川区立清新第一小学校を会場として開催され、最後の全体講座を受け持たせていただきました。「楽曲分析から解析へ」という大きなテーマを掲げたのは教材を外見だけではなく、作詞者・作曲者・編曲者が何を意図してそのような楽曲としたのかを考えることは作品をより好きになり、子供たちへの指導のポイントを明確にするために有効であろう、そして編曲者の立場からそれを先生方にお伝えすることは何らかのお役に立てるのではないかと考えたことによります。わが師でもある杉本竜一氏のBelieve、拙編曲による嵐の「ふるさと」混声3部版を俎上に私が師から学んだ自身の苦手克服のためのアプローチを用いながら歌唱技術の基礎から作品分析、編曲意図までを語らせていただきました。



先生方の真剣な眼差しは素晴らしい声とハーモニーとなって会場を響かせ拙編曲ながら感動の時間でした。馴染みがあるであろう曲を掘り下げることでテーマに近づけたのではないのでしょうか。先生方の教材研究の一助となれたならば幸せに思います。

富澤 裕